

この編集後記を書いているときに、世界野球プレミア12が華々しく始まった。日本はオープニングラウンドを順調に5連勝で勝ち上がり、スーパーラウンドに進んだ。普段は異なるプロ野球チームでプレーしている選手たちだが、優勝という目標に向かって、個々の選手が能力を最大限発揮しながら、チームプレーに徹している様子がテレビ画面を通して伝わってくる。プレー自体にまったくミスがないわけではないが、そのミスをバックアップするファインプレーが随所にみられ、これぞ「プロの技」と唸ってしまう場面が多くあった。

さて、今回の特大号は「転移性脊椎腫瘍治療大全」として、転移性脊椎腫瘍の診断から治療計画に必要なスコア・分類、治療適応と手技、治療における問題点と対策、マネジメント、原発担当科からみた脊椎転移に関する解説など、盛りだくさんの内容であった。患者さんにとっては、原発がんの診断・治療における困難があるうえに、脊椎への転移によって麻痺あるいは痛みがひどくなる状況は大変深刻である。脊椎脊髄外科医が担う役割は決して小さくはないが、当然ながら集学的マネジメントこそが最重要であろう。つまり、患者さんを中心にチームワークを結集させることが求められる。今回の特大号では、執筆陣の知識・経験が詰まっており、日常診療に直結する素晴らしい内容であった。

転移性脊椎腫瘍の診療においては、世界野球プレミア12のような勝敗の世界ではないが、がんと向き合い、生活の質を維持していくことが求められる、まさにがんと闘いであろう。がん診療に関わる医療従事者は、普段は必ずしも同じ部署あるいは診療科に従事していなくても、がんの転移疑いとなれば、部署・診療科に関係なく横断的連携が求められる。診断・治療が思うように進まないことがあっても、全体としてバックアップする診療体制の構築が必要であろう。世界野球プレミア12では、侍ジャパンは残念ながら台湾に決勝戦で負けてしまったが、チームワークは抜群であり、負けた悔しさは次につながるものと確信している。患者さんから信頼される医療チームの一員として、これぞ「プロの技」とお褒めの言葉をいただけるように努めたいと思う。

(高見俊宏)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

松山幸弘 (編集委員長)
亀山 隆 黒川勝己 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中西一義 中村雅也 西田康太郎
原 政人 飛驒一利 堀 正明
安原隆雄

Vol. 37 No. 10
(2024 年 12 月 25 日 発行)

毎月 1 回 25 日 発行

1 部 定価 (本体 5,800 円 + 税)

(配送料別)

年きめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発 行 / 株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒 113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 西本・山岸)

印刷所 / 三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所 /

(株) 文栄社

TEL 03-3814-8541

(株) ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となる場合がありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2024,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。